

兵庫県姫路市の井野病院という私立病院で壁画の制作を依頼された。そこで、勤務先の学生たちに協力してもらって、準備を重ね、今月からようやく現場での作業を開始することになった。

壁画とはいっても、病院内にあるふたつの階段の周囲の壁に絵を描くのである。学生たちはさまざまなアイデアを出し合い、一人でコツコツと描いたり、共同して大きな作品を描いたり、自分のスタイルを発揮しはじめている。

ただ好き勝手に描いたらいいというわけではない。やはり病院の階段周りに描くということが重要だ。そこで、病院に適した図柄やデザインを調べてみると、先行研究がほとんどないことに驚く。海外の事例は多い。それは、海外では、医

病院に壁画を描く

療空間が多くの人々に対して開かれているということを示している。

わが国では、病院は医療だけを行なう場所であるという認識があって、医療につながらないことに対してはあまり積極的ではない。小児科医院や老人病院で、医療者個人が工夫してアートを取り入れている例がわずかにあるだけだ。

したがって、病院側とも相談しつつ綿密に計画した今回のプロジェクトは、日本の医療史においても画期的なことなのである。「いい作品にしてほしいが、階段に座りこんで鑑賞されない程度の名作」というむずかしい注文に、学生たちがどの程度応えられるのか。話をもちかけた私自身が最も楽しみにしているのだ。(京都造形芸術大助教授・芸術生理学)